

柔道形競技者の継続理由に関する研究

A study on active motivation for continuation of judo kata athletes

スポーツクラブマネジメントコース

5016A309-9 濱名智男

研究指導教員：間野義之

I 緒言

柔道は、1882年に柔術を止揚して嘉納治五郎によって創始されたものであり、「精力善用」「自他共栄」を基本理念として「己の完成」と「世を補益」をすることこそが「柔道修行の究極の目的である」とされている。しかしながらその理念が、柔道競技を行う上で、意識されているかどうかは必ずしも明らかにされてはいない。

柔道の攻撃防御の修行方法には形と乱取があり、双方を偏りなく行うことで柔道の本質を体得できているとしている。しかしながら現状の柔道修行方法は競技柔道偏重となり、修行方法も乱取に偏っている。講道館・全日本柔道連盟ではこの現状を憂慮し、形による柔道の普及振興を図るため、形競技大会を開催した。そして現在は世界形選手権が開催されるなど、形競技は世界的にも広がりを見せている。このような背景の中、形競技者が持つ継続理由を知ること、そしてそれは、柔道の理念が反映されているものなのかを把握することは今後の柔道普及を考える上において必要なことと考える。

II 先行研究の検討

柔道に関する意識について船越ら(1996)は、高段者ほど柔道理念の真髄である融和共生への共感が強いとしている。また、空手道、柔道、剣道及び集団競技実践者のスポーツ志向の比較について(藤原ら2016)は、「楽しみ志向」は集団競技、空手道、剣道、柔道の順に高いと述べている。欧州柔道選手と日本人学生選手の比較について(横山2009)は、欧州選手は柔道をスポーツ的に、日本の学生選手は武道的に捉えているとした。また、継続理由について(射手矢ら2011)は、柔道実践者とその他のスポーツ実践者と比較したところ、柔道群には「格闘技への魅力」や「精神性の向上」因子があるのに対し、非柔道群に

は「自己実現」「快感情」因子があるとの違いを特徴として示した。柔道の意識に関する研究は様々な対象に行われているが、柔道継続理由に関する研究は多くは行われておらず、特に柔道形競技者の意識や継続理由についての研究は全く行われていないことが明らかとなった。

III 研究目的

柔道が掲げる理念が、実際に継続理由として柔道形競技者に反映されているか実証的に明らかにする。

IV 研究方法

柔道形競技者の継続理由について調べるために、探索的因子分析を行った。

1. 調査方法

質問項目は、射手矢ら(2011)や山本(1990)の意識や参加動機に関する研究を参考に64項目を選定した。64項目の尺度を柔道形競技者に使用して問題ないかを確認するため予備調査を行ったうえで、その後の研究を進めた。64項目の応答は、4段階評定尺度で行った。調査は、柔道形競技者に直接アンケートを配布し、回答後の郵送を依頼した。

2. 調査対象

柔道形競技者を調査対象とした。平成28年度全日本柔道形競技大会、平成28年度K県柔道形選手権大会、平成28年度T地区柔道形競技会、平成28年度K地区柔道形競技会の出場者及び全日本柔道連盟形競技強化選手を対象とした。アンケートは、388名に配布し、207名(65%)の有効回答を回収した。

3. 調査期間

調査の時期は、調査対象となる大会参加者に、大会の場を利用して調査を行い、平成28年7月～10月に質問紙を配布の上、回収を行った。

4. 分析方法

各項目の応答により、そう思わない「1」は1点、ややそう思わない「2」は2点、ややそう思う「3」は3点、そう思う「4」は4点とし、各項目の平均得

点、標準偏差を求めた。射手矢ら(2011)及び山本(1990)の尺度を参考とした64項目を使用の上、柔道形競技の継続理由について調べるために、探索的因子分析を行うこととした。統計処理はIBM SPSS Statistics ver.24を用いた。

V 結果

柔道形競技者の継続理由に関する因子構造を調べるにあたり、天井効果、フロア効果を示す項目を除外のうえ因子数を特定せず回転なしによる主成分分析による探索的因子分析を行った。因子数はスクリープロットにより判断し、2回目の因子分析において、因子数を4に固定し、最尤法プロマックス回転による分析を行った。因子負荷量が0.35に満たない項目、また因子負荷量が0.35以上の項目が2因子に跨る項目も除外し、繰り返し分析をおこなったところ4回目の因子分析においてに4因子(39項目)の構成項目が抽出された。因子の命名を行い、因子負荷と各因子の内的整合性の検討として算出されたクロンバックの α 係数を表1に示した。

表1 柔道形競技者の因子構造

| 項目 | 因子1 | 因子2 | 因子3 | 因子4 |
|--|--------|--------|--------|--------|
| 因子1:精神性の向上($\alpha = .924$) | | | | |
| 忍耐力がつかすから | 0.891 | -0.175 | -0.045 | 0.035 |
| 判断力や決断力が高まるから | 0.797 | 0.104 | 0.03 | -0.139 |
| 積極的になるから | 0.786 | -0.116 | 0.155 | 0.1 |
| 創造能力が高まるから | 0.765 | 0.129 | -0.117 | -0.095 |
| 想像力が高まるから | 0.725 | 0.096 | -0.141 | -0.083 |
| 正義感が強くなるから | 0.709 | -0.019 | 0.108 | 0.016 |
| 思いやりや友愛の気持ちを養うから | 0.699 | 0.03 | -0.045 | -0.052 |
| ものごとを觀察する能力が高まるから | 0.638 | 0.224 | -0.142 | -0.113 |
| 情緒の安定に役立つから | 0.558 | 0.125 | 0.102 | 0.024 |
| 身体の動きが美しくなるから | 0.536 | -0.102 | 0.269 | 0.119 |
| 他のスポーツも上手になるから | 0.367 | 0.148 | 0.239 | 0.034 |
| 性格が良くなるから | 0.363 | 0.204 | 0.059 | 0.217 |
| 因子2:社会性($\alpha = .879$) | | | | |
| 日常生活に生かすため | 0.041 | 0.824 | 0.112 | -0.309 |
| 自分の身を守るため | -0.029 | 0.612 | 0.171 | -0.177 |
| 対人的だから | 0.108 | 0.598 | 0.017 | 0.062 |
| 社会の発展のため | 0.203 | 0.581 | -0.125 | -0.061 |
| 全面的な人間の発展に貢献するから | 0.196 | 0.531 | -0.005 | 0.06 |
| 見ていて面白いから | -0.029 | 0.511 | -0.227 | 0.343 |
| 近代的だから | -0.113 | 0.509 | 0.08 | 0.247 |
| 余暇生活を豊かにするから | -0.088 | 0.505 | 0.174 | 0.074 |
| 相手との接触があるから | 0.16 | 0.484 | -0.03 | 0.142 |
| 充実した生活を送りたいから | 0.032 | 0.457 | 0.073 | 0.161 |
| 交友関係が広がるから | 0.148 | 0.418 | -0.008 | 0.139 |
| 因子3:身体能力の向上($\alpha = .893$) | | | | |
| 基礎体力の向上・維持のため | -0.049 | -0.008 | 0.971 | 0.007 |
| 基礎運動能力の促進のため | -0.032 | 0.042 | 0.93 | -0.051 |
| 健康の増進のため | -0.119 | 0.029 | 0.902 | 0.01 |
| 体型を良くするため | 0.138 | 0.004 | 0.518 | 0.133 |
| 自然に適應できるから | 0.267 | 0.202 | 0.448 | -0.173 |
| 身体を鍛える方法を学べるから | 0.172 | 0.196 | 0.353 | 0.066 |
| 因子4:競技志向($\alpha = .800$) | | | | |
| 勝利を体験したいから | 0.032 | -0.153 | 0.059 | 0.615 |
| 励ましてくれる仲間がいるから | 0.236 | -0.243 | 0.07 | 0.598 |
| 成功して有名になりたいから | -0.281 | 0.158 | 0.049 | 0.594 |
| 勧める人がいるから | 0.024 | -0.15 | -0.069 | 0.577 |
| 競技成績が良かったから | -0.295 | 0.047 | 0.038 | 0.561 |
| 競争意識を育成するから | 0.163 | 0.161 | -0.086 | 0.524 |
| 強くなりたいから | 0.207 | -0.031 | 0.035 | 0.483 |
| 大きな怪我・病気がなかったから | -0.083 | 0.1 | 0.145 | 0.451 |
| あこがれている選手がいるから | -0.081 | 0.296 | -0.017 | 0.409 |
| 近くに練習場があるから | 0.122 | 0.163 | -0.212 | 0.405 |

VI 考察

抽出された因子は「精神性の向上」「社会性」「身体能力の向上」「競技志向」に分類された。嘉納は柔道について、「心身を鍛錬し、己を完成し世に役立たせる」と定義している。本研究の結果を概観すると、上記にある「心身」が抽出因子の「精神」「身体」に相当し、「世に役立たせる」との考えが「社会」に相当していると考えた場合、柔道そのものの在り方について競技者が理解した上で取り組んでいることにより、その競技性についても「競技」として因子が抽出されたものと考えられる。先行研究との比較において、射手矢らが示していた「好感情」因子に関しては、概ね全ての項目についてフロア効果を示した。

VII 結論

本研究を通じて、柔道形競技者の継続理由について、4つの構成概念を抽出し明らかにすることができた。これらは、柔道創始者である嘉納治五郎の掲げた柔道の目的に合致するものであり、形競技を継続する上で競技者の意識として根ざしていることが明らかとなった。

VIII 研究の限界

本研究においては、柔道の理念と競技継続理由に注目した。競技継続理由において、柔道の理念は息づいていることが明確になったものの、そうした理念が競技者の普段の行動に及ぼす影響までは明らかに出来なかった点において、本研究は極めて限定的に柔道形競技者の継続理由に注目した研究であるといえる。

IX 実践への提言

結論を通じて、柔道形競技による普及振興方法について当初の目的と合致した普及が行われていることが実証的に示された。一方で継続理由については、好感情が少ないことが明らかとなり、このことが普及振興の妨げとなっている可能性があるため、今後、継続理由における好感情の追求が競技普及振興に重要である可能性を示すものである。